

令和6年度第1回中央区教育会議 会議録

令和6年9月5日(木)

18時～19時20分

中央区役所7階会議室

【榑原中央区教育担当課長代理】

本日は大変お忙しい中、中央区教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまより中央区教育会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます榑原でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

この会議は公開となっておりますが、現在のところ傍聴者の方は、いらっしゃらない状態です。

また、会議録を大阪市ホームページにて公開いたします。会議録作成のため、本会議の録音をさせていただきますので、どうぞご了承ください。また、時間は午後6時から7時30分までを予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、瀬戸委員、日高委員、馬場委員、大重委員、山口委員、黒田委員にご出席いただいております。ちょっと、岡本委員様は今のところいらっしゃらない状態ですけれども、以上の方にご出席いただいております。

それでは、区役所の担当職員について紹介させていただきます。

中央区長 兼 中央区担当教育次長の稲嶺です。

【稲嶺中央区担当教育次長】

稲嶺です。どうぞよろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

中央区副区長 兼 中央区教育担当部長の小林です。

【小林中央区教育担当部長】

小林でございます。よろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

中央区教育担当課長の平田です。

【平田中央区教育担当課長】

平田です。よろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

市民活動支援・教育担当課長代理 兼 中央区教育担当課長代理の覺野です。

【覺野中央区教育担当課長代理】

覺野です。どうぞよろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

そして私、担当課長代理の榑原です。よろしくお願いいたします。

また、本日、学校関係者として、上町中学校校長 松井様。

【上町中学校 松井校長】

松井でございます。よろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

南小学校校長の池田様。

【南小学校 池田校長】

池田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【榑原中央区教育担当課長代理】

ご出席いただいております。どうぞ、よろしくお願いします。

まず、はじめに、稲嶺中央区担当教育次長よりご挨拶をさせていただきます。

【稲嶺中央区担当教育次長】

はい。改めまして皆様こんばんは。

【一同】

こんばんは。

【稲嶺中央区担当教育次長】

今日は、本年度の第1回教育会議というところで、皆様方のいろんなご意見頂戴し、今年度また来年度に向けての中央区の教育行政に反映してまいりたいと思っています。

今日は現在取り組んでいる内容と、それから最後の方になりますけども、昨今中央区の小中学校の中でもかなり人口が多くなっているところ、収容難しいという話もございますし、一方では条例上適配の対象となっているというところもございますので、そのあたりの説明と、それからこの会議と区政会議というものももう一つ別建てでございまして、そちらでも教育に関するいろんなご意見頂戴しておりますので、そこで出たご意見なんかもご紹介しながら今日は進めてまいりたいと思いますので、今日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【榑原中央区教育担当課長代理】

続いて、議事に入ります前に、お配りしております資料の確認をお願いいたします。

お手元に、本日の配席図、次第、委員名簿、開催要綱、資料1、資料2、資料3、学校案内となっております。すべてお揃いでしょうか。

それと、ちょっと議員名簿の黒田委員の肩書のところが古い肩書になっておりまして、申し訳ございません。今、大阪成蹊大学の広報統括本部産官学社会連携本部産官学社会連携部の部長でいらっしゃいますので、申し訳ございません。ちょっと訂正させていただきたいと思います。

次に、議長、副議長の選出ですが、中央区教育会議開催要綱第6条に、「委員は、その互選により議長及び副議長を選任するものとする。」とあります。

皆さまよりご意見はございますでしょうか。ないようでしたら、事務局より提案させていただきます。

現役の保護者で、区PTA役員でおられますお二人にお願いしたいと思います。

PTA協議会の会長の瀬戸（せと）様を議長に、中央区PTA協議会の副会長の日高（ひだか）様を副議長に提案させていただきます。

ただ今の提案についてご意見ございますでしょうか。

ご意見がないようでしたら、拍手でご承認いただきたいと思います。

【一同】

（拍手）

【榊原中央区教育担当課長代理】

それでは議事に入らせていただきます。

これより先の進行につきましては、瀬戸議長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【瀬戸議長】

こんばんは。

議長をさせていただきます中央区PTA協議会会長の瀬戸と申します。よろしくお願いいたします。

着席にて議事の説明をさせていただきます。失礼します。

それではただいまより、議事の方に入らせていただきます。

まず、議題（1）主な教育関連事業の状況について、区役所の方から説明をお願いいたします。

【平田中央区教育担当課長】

改めまして、中央区教育担当課長の平田でございます。

私から、議題(1)令和6年度の区の主な教育関連事業の実施状況につきまして、ご説明をいたします。

まず、お手元の資料1をご覧ください。1ページ目でございますように、これから、令和6年度中央区においては様々な業務課題がございますが、それを解決するために、そのうえで学校をしっかりと支援をして、こどもたちの教育が向上しますように様々な事業を実施しております。

めくっていただきまして、一つ目、子どもの体力向上支援事業でございます。これは、小学生を対象とした事業でございます。中央区の場合、非常に運動場が狭くて、また都心部であるということから、公園等なかなか周りで遊ぶ場所もないという課題がございます。やはり体力面に課題がございます。そういうところから、学校でそれぞれの体の動かし方であったりといったものを民間のノウハウを活用して指導者を派遣しております。その取り組みにおいては、学校のそれぞれで立てておられる達成目標・要項をしっかりと踏まえまして、事業実施後も継続的な効果がでくるように授業や休み時間、家庭等で年間を通して取り組めるように工夫した内容としております。令和6年度からは、新たに教員を対象とした専門的・技術的な助言・指導を行う指導者向け講習会も行うこととしておりまして、2学期に2校で実施の予定をしております。

続きまして、資料は体力向上の様子は写真でご紹介しておりまして、4ページ目、2つ目。今度は中学生を対象としました、こどもの英語力向上支援事業でございます。学校のニーズに応じまして、英検へのチャレンジにより学習意欲を向上させることを目的としまして、市立中学校3校の生徒1～3年生のいずれかの学年を対象として、実用英語技能検定の受験料を助成をしております。子どもたちによっては、なかなか英検を受験するという機会に恵まれない子どもであったり、そういう発想がないような子どもたちも多くいると思いますので、しっかり学校の方でこういう機会を与えていただくことで、より仲間で勉強しようという気持ちになるといったことをめざして支援しているところでございまして、難しい級に合格をしたりとか、苦手だけでも頑張っですごい自信になったというような効果があったと学校の方からはお伺いしているところでございます。

続きまして、5ページ3番目です。民間事業者を活用した課外学習支援事業「寺子屋ちゅう

おう」と言いまして、塾で民間の事業者のノウハウを活用し、区内中学生を個別指導ができることで勉強が苦手な塾に行く機会のない子どもたちの学力の底上げを図ることを目的としておりまして、今申しましたように塾に行くなかなか機会のない子ども達でも大阪市の塾代助成事業を利用することで、実負担なく学習できるように支援をしている事業でございます。令和6年度は今申しました塾代助成事業が小学生5・6年生へと拡大したことによりまして、試行として夏休み中の小学校5・6年生を対象に無料体験会を実施しております。これを踏まえまして、令和6年度中には小学生を対象に寺子屋ちゅうおうを拡大していくべくただ今準備をしているところでございます。

続きまして、4外国につながる児童生徒エンパワメント事業についてでございます。ご存じのように、中央区におきましては、年々外国籍の児童・生徒が急増しております。また、その国籍も様々な非常に多くの国につながる児童・生徒が中央区で学んでいるという状況にございます。そこで、区内小中学校の教職員の皆様と連携をしまして、具体的な強化学習に必要な日本語の力をつけるため、外国につながる子どもが学校生活において、日常的に安定して学習できるよう、有償ボランティアのサポーターを配置をしております。サポーターの設置数が18名で延べ7月末で180時間活動されておられるということで、区のHP等でもサポーター募集するなど引き続きの支援を行っていきたいと思っております。

続きまして、今度は児童ではなくて、外国につながる若者・保護者のエンパワメント事業でございます。事業の概要でございますが、こどもがそのまま学校を卒業した後も引き続き支援を、途切れることなく支援をしていけるように、また、保護者、子育て中の保護者の皆様が自分たちが社会を担って自分らしく活躍をしてもらうために、様々なお困りごとの相談や日本語の習得等のサポートを実施しております。具体には左側の外国につながる保護者等への就労につながる日本語習得の学習サポートで、学習会を実施しておりますのと、外国につながる若者の集いと称しまして、令和5年度19名の方参加していただいて、もうすでに卒業している皆さんが継続的につながって、様々な話をしていただくとともに、その姿を見て子どもたちが自分たちの将来についても考えられるようにという機会の提供を目的として、実施しているものでございまして、今年度も2学期実施予定となっております。引き続き、様々な利用者の声なども反映しながら、支援をしていきたいと思っております。

続きまして、9ページ。小中学校における人権学習の充実といたしまして、学齢期から人権意識を高めることをめざしまして、令和5年度から、小中学校を対象として、出張授業を実施しており、学校の希望をうかがいながら聴導犬の学習会、手話学習会、盲導犬の学習会をデモンストレーションなどを交えて実施しているところでございます。

次に、中央区読書活動推進事業です。区長による表彰事業としまして、社会を明るくする運動と連携をし、作文やポスターを出していただいて、優秀な作品に表彰を学校を周って保護司の皆様と連携をしながら表彰をしている事業でございまして、引き続きやってまいりたいと思っております。

また、次めくっていただきまして11ページなのですが、同じく区内各校の読書活動を広報紙に掲載するとともに、「推し本」と言いまして、各学校の図書室で本屋さん等でも魅力のある図書を目立つように手書きでポップというんですけれども、そういうのを作ってみんなが喜んで手に、面白いと思って手に取れるようにと様々な工夫を子どもたちが自らやっていております。そうした推し本の紹介の作ったものを図書館や森之宮キューズモールに展示をしまして、保護者の皆さんらに見ていただいているというところでございます。

続きまして、ちょっと事業名長いんですけども、子どもと学校等と連携した大阪・関西万博の機運醸成を通じた多文化共生のまちづくり事業についてでございます。来年度、皆様ご承知のとおり万博が開かれます。非常に未来を担う子どもたちにとっても大切なテーマを多く含んだうえで実施されますので、そうしたことも踏まえまして、こどもたちがさまざま日常の学校での取り組みから万博に思いをはせ、ひいては様々なこれからの未来に思いをはせて、しっかり考えていくことができるようにということで、万博のロゴのクリアファイルを作成して、関心を高めてもらうと共に、まだまだ情報発信をしていくということしております。

最後の一つですが、「こどもの貧困」をなくすための子どもと学校等支援事業についてでございます。これは本市の特段の子どもの貧困対策重点事業として、予算をつけていただいているものでございまして、区内の公立学校内に様々な社会経験を持つボランティアをサポーターとして配置しまして、教職員との連携や指示のもと不登校または、不登校傾向にある子どもの登校支援や通常の学校活動への復帰支援等を細やかに行う、やはり、不登校状態が続いてそのままになってしまいますと、ひいてはそのまま貧困に陥ってしまって、より苦しい状況になるというこ

とで、まずは不登校傾向にある子どもたちに寄り添って、学校に戻るもしくは周りの人とつながれるということをめざして取り組んでいるものでございまして、令和6年度は全校展開をしまして、より多くの改善事例につなげていきたいと思っております。それにつきましては、学校への皆様へのご協力とボランティアの皆様のお陰によりまして、学校にすぐ戻れなくても人と関われるようになってということで、非常に改善事例が多く出てきているというところでございます。ただ今の「こどもの貧困」をなくすための子どもと学校等支援事業につきましては、別添の資料に区政会議の方で、同様のご説明をしましたところ、こちらに記載させていただいているとおり、非常に良い事業であるから、引き続いて子どもたちに寄り添ってきめ細やかな指導・支援をしていってもらえたらという風にご意見をいただいているところでございます。

わたくしからの説明は以上でございます。

【瀬戸議長】

平田課長ありがとうございました。

ただいまの説明に対しまして、委員の皆様からご意見をお伺いたいと存じます。何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

僕の方から1点あるんですけど、9ページ6番、盲導犬学習の実施校未定となっておりますけども、昨年東中学校の方で亀岡の盲導犬センターというところへちょっと人権で行かせてもらいまして、そのときにちょっとお伺いしたのが、盲導犬にとって一番大事なのが、普通に接するとか、注目しないであったりとか、ワイワイしないっていうそういうのを、ご意見いただいたんですけども、小学校だとなかなか難しいのかなと思うんですけど、低学年とかだとやっぱり盲導犬を見ると物珍しいというか、これは小学校も中学校もどちらも決まってない未定ということなんですか。

【平田中央区教育担当課長】

実際は、どういう形で運営してるかと申しますと、この事業平成元年からしておりまして、毎年この学年、ていうのを決めていただいととか、少し間があって、何年かに1件ということで決めていただいて、順番に実施しているところでございまして、まず、先生たちの方からしっかりと事

前に、そういう話もしていただいた上で、実施してるところなんですけれども、非常に、この聴導犬にしましても盲導犬にしましても、やっぱり子どもたちが本当に、その、ここでいうと犬がやってきて、本当に介護者の方と、心通わせながらやってるっていうことを自らの言葉で、教えて語っていただけるっていうことで、すごく子どもたちがそのあとお便りをくださるんですね。本当によかったっていう。みんなそれぞれ一生懸命書いてくれて、こんなお便りをくれて、それをまた、この講演してくれた方に返してっていうことで、大体同じところから来ていただいているんですけれども、非常に落ち着いた成熟した事業になってるかなあと考えています。

ご懸念されてるところも含めて、上手に今のところはできてるかなあと考えております。ありがとうございます。

【瀬戸議長】

なかなか街中でこう続いている方っていうのは、盲導犬ってなかなか見る機会っていうのはもう多分見たことないかなと思うんですけれども。なかなか僕もやりたいと思うんですけど、希望すれば、比較的できるんですかね。

【平田中央区教育担当課長】

はい。区役所の事業では学校からのご要望でという立て付けになってますけれども、いろいろな団体が、こういうことをやってたりもしますので、例えば学校外でされとしても、どうしても機会がやっぱり数がそんなに多くないので、頼んですぐっていうのもなかなか難しいこともあるかもしれませんが、学校でやる場合は、順番に待っていただければ、実現に繋がるかなと思います。はい。

【瀬戸議長】

すいません。ありがとうございます。

誰もコメント・質問がなかったんで。

では一人ずつコメントを伺いたいと思うんですけれども、馬場さんの方から時計回りにご意見いただきたいなと思います。

【馬場委員】

ありがとうございます。

社明運動のね。今年もどっかありましたね。

ちょっと私採点させていただく機会がありまして、小学生、中学生、すごく作文が上手にできて、もうなんか大人顔負けの、文章で、皆さんすごく勉強してはるんだなと思って感心しました。年々なんかレベルアップしてるみたいで、小学生とか中学生のその文章力というのは、本当にこうすごいなと思って、感心しました。

それと子ども食堂ですか。これは増えていってるんでしょうか。子ども食堂。

【瀬戸議長】

平田課長、子ども食堂について。

【平田中央区教育担当課長】

子ども食堂については、すごく大きく社会的なムーブメントになりまして、各所でどんどん増えていっているところで、中央区におきましても、実施してる取り組んでおられる場所がありまして、毎年、どこでやってますよっていうのも、区の広報紙でご紹介しておりまして、取り組みは広がっております。

いろんな形で、最初の形で、やっぱりいろいろ課題も出てきては、ちょっとやり方を変えてとか、一回だけだけれども、こういう形で支援をしたいよっていうような取り組みが一回だけあったりとかいろんな形で課題を解決しながら、広がっていけるようにというふうに理解しております。

【馬場委員】

テレビで見たんですけど、子どもさんだけじゃなくてね、大人も困ってる方が多いので、どっか別の都市だと思うんですけども、子どもさんと一緒に、食堂で食事ができるってテレビの放送があつてね、こういうこともいいことだなと思って。今いろんな違いがあつて、大変な時代ですからね。

以上です。はい。ありがとうございました。

【大重委員】

大重です。

4番の外国に繋がる児童生徒エンパワーメント事業のところで、お伺いしたいけれども、目的のところが日常的に安定して学習できるよう、サポーターを配置ということですが、これはもう学校によってニーズとかもあるとは思いますが、実際サポーターをされてる内容っていうのはいろいろあると思うんですが、やっぱり、それぞれ違うところが多いのかと、各校。

対応の力っていうのは、ニーズを満たしてるものなのかどうか、お聞かせください。

【平田中央区教育担当課長】

はい。やはりサポーターの皆様も、来ていただく方を見つけるのが、ちょっと大変なんだっていうご意見は各校からいただいているところです。

時間については、限りがある中で来ていただけるボランティアの方と、その学校学校の日常に応じて、その子どもさんに寄り添ってもらわなければならない、と考えていただきながらやっていただいているところです。

足りてるのが足りてないのかというと、アドバイザーの校長先生もしよければ、率直なところおっしゃっていただければ。

【南小学校 池田校長】

ありがとうございます。

南小学校校長池田でございます。

非常に本校、外国に繋がりのあるお子さんが非常に多くてですね、もう本当に人がいないことには、なかなかやっぱり、実はうちの学校でも外国に繋がりのあるお子さんというのがもう6割、おりまして、日本語に不安のあるお子さんも、大体もう今でもざっと数えても40名ぐらいは、常にいる状況で、こういうふうな事業を活用させていただきまして、本校にも日本語指導の教員がもういるんですが、それ以外のところで例えばその手が届かない学習面のサポートであったりとか、それからわからないときに、手を差し伸べて、子どもたちに寄り添って教えてくださるとか

もそういったことで、非常にこういう事業を展開してくださるのは、もう本当にありがたい話で、是非ともこれ、どんどん広げていただいて、もっと人いただけたらなというふうなことはいつも思っております。はい。大変助かっております。

【上町中学校 松井校長】

はい上町中学校の松井でございます。

本当にこの、まずはこの区の事業で、外国に繋がる児童生徒に対しての、いろんな支援をしていただけるっていうことに関しましては、本当にまずは感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

委員のご指摘のような、足りてるかどうかって言われると、本当に今たくさん外国からの転入生が増えてきてるっていう現状から言いますと、やはりちょっと心もとない部分があるのかなっていうのは、正直なところなんです。

今の本当にもう、課題となってきたことで言えば、日本語がしっかり話ができるようなサポートと、もう中学生の段階になっていきますと、やっぱり進路に向けてっていうことを考えていかなあかんときに、やはりこの学力をいかにつけていくのか。

日本語でのレベルって言ったら、ちょっとあれなんですけども、やはり日常会話ができるところからこの学力をつけていくっていう、その事業に対してとか、というところであれば、さらにこう、ちょっとレベルを上げた学習をしっかりしていただくことが、やはり日本のいろいろな高校、ただ、高校の方もいろんな準備がされてて、その外国からのね、受け入れ体制っていうのはあるんですけども、やっぱり普通の、この日本の子どもたちと一緒にその学力をつけてその日本の高校へ行くってというような道に進ましていこうと思ったときにはやはりまだまだ難しい面があるのかな。先日もちょうどチャレンジテストというその選抜にかかるようなテストも実施しておるんですけども、やはりどこの3中学校とも、どうやって外国からたくさん来られた子どもたちに、そういうテストで、やっぱり成績っていう言葉があれなんかどうかあれなんですけど、本当に現場が今苦慮しておるところですので、さらに日本語の力を身につけさせていく、また授業に耐える語学力をですね、つけさせていくということが、さらに求められていくのかなというふうには感じております。以上です。

【大重委員】

ありがとうございます。

令和6年度予算が、2百と92万7千円。ニーズとこの金額と、またやっぱり募集の方法なんかで結構変わってくるんじゃないかなと思いますので、是非提案を検討いただけたらと思います。

【山口委員】

山口です。お世話になっております。

いつもですね子どもたちのために力を尽くしていただきまして本当にありがとうございます。

一応お話を聞かしていただく中で、本当にきめ細かく、いろんなことに努めていただいていることはもう、本当にもう痛いぐらい伝わっておる状況ではあるんですが、しいて言えば私が注目させていただきましたのが、9番の子どもの貧困なくすための子どもと学校との支援事業というふうに思いましてですね、実際、具体的にどういった形のことに努められているのか、また例えばこれ予算、かなりの金額いただいていると思うんですけども、企業様、一般企業様とかですね、いわゆるそういうスポンサー的な形のことをとっていかれてるのかどうかといったことを少しお聞かせいただければと思っております。

【平田中央区教育担当課長】

これにつきましては、先ほども少しご説明しました資料にも書いてありますように、こどもの貧困率が高いと、特に大阪市では重要な課題であるということで、予算をつけていただいております、実際に何をしてるかと申しますと、学校の先生をご経験いただいた方でありましたりなどの知見のある方に、有償のボランティアという、いわゆる謝礼金をお支払いする形で、来ていただきまして、ほぼ学校で例えば登校渋りがある子ども、どうしてもなかなか1人で行けないんだけどもっていう子を、先生、一緒にまず、門をたたいて、会話ができるように、少しずつ寄り添って、そっから学校に連れていってあげる。また、学校内でなかなか教室に入ったりということができない子どもに寄り添っていただく、学校に来たは良いけど、どうしても学校がしんどいっていうところをすごくいろいろと、それぞれ取り組みしていただいて、子どもたちが少し落ち着いて、休め

るような教室であったり、場合によっては校長室で過ごせるようにっていう場を設けてくださって
る中で、少し寄り添って、戻れそうな子は戻っていけるように、寄り添って準備の期間を一緒に
過ごしたりとか、というようなことをしていただいている事業でございまして、おっしゃっていただいた、
一旦今のところですね、民間と何か連携をしてっていうところは、直接的にはこの事業について
は今はまだ出していないところでございます。

【稲嶺中央区担当教育次長】

少し補足をしますとですねもともとこれ、なぜ、なぜ子どもの貧困っていうふうの予算カテゴリー
になってるかといいますと、これ、子どもの貧困対策の特別チームみたいなのがありまして、こ
れ市長をトップにして、皆さんメンバー入ってるわけです私も入ってるんですけども、その中で、
不登校、中央区では、もともとこの子どもの貧困予算とってないんですね。

経済的にはそれほど困ってる人が比較的少なかったということもあって、ただ、一方では不登
校でありますと、将来的にやっぱり社会に出て行かな、ひきこもりに繋がるそうすると結果的に
貧困に落ちていくんじゃないかということがありまして、これ無理くり不登校対策費用この予算
があってできてるっていう形になります。

昨年度からスタートしてまして、昨年度は全校ではなくて、不登校の比較的多いところから始
めていって、結果的に改善に繋がった率が、7～8割出て参りました。完全に学校出てこれます
よまでは言ってません。いろんな形で、人間関係ができたとかっていうところも含めて、一応文
科省の基準があるみたいです。そこで、改善傾向ってのはこういうレベルまでよというのがあっ
て、それに則ったやつが結構な率があったということがあって、財政的にもそれやったら、全校展
開しましょうかという、理解していただいて今年から全校でやる、という形になってまして、実際
に学校の先生が不登校の生徒等に寄り添い支援しようとする就非常に厳しいですね、また学校
先生という、例えば担任の先生との関係でいうと、かなりやっぱり子どもたちが、つらい場面も
ある。ひょっとして先生との関係が本当の関係で行きにくくなってるかもわからないところに、先
生だけ頑張って連れてはいけないと、より厳しいですから、ちょっと違う人を、まずつなぎ役とし
て、それからちょっとずつ、ここに繋いでいこうという形になりますので学校側としても、活用して
いただいているのかなあというふうに思います。

少し私の説明が現状違うかも知れませんが、少し補足をいただければありがたいんですけど。

【上町中学校 松井校長】

今年から上町中学校、不登校サポーターがこられてちょうど、1学期の間はいろいろな人選調整してもらって、決まって、ちょうど7月31日にサポーターさんが、こういう不登校の子どもたちとかに向けて、(自己紹介のチラシを)作ってくれはったんです。

ご本人に、今日この会議でまいていいかの確認はちょっとできてはないんで1回これ、ちょっと今まわさしてもらいますので、こういう本校ではこの方が持ちますので、やっぱり学校の先生が指導で、何、コラ、はよ起きて来んかいと何をさぼってんねん的な指導的なものではなく、やっぱり子どもの今の現状に寄り添って、声をかけながらアプローチしていくっていうようなスタンスで、本校ではちょっとやってもらってますのでそういうのをサポーターさんともお話ししてもらって、ほんなら、ちょっと1回私が作ってみますっていうことで、もう本当にご本人のプライベートなことまでも、ちょっとさらけ出しながらアプローチをしようと試みて、もらうようなものになってるということで、ちょっと後で見いただけたら。

【南小学校 池田校長】

南小学校だけのことをちょっと言わしていただくと、今、不登校のお子さんっていうのが、ちょっと限りなくゼロに近くなってきたっていう、不登校ぎみであった子も、ちょこちょこ学校へ来ることができるようになってきて、本校の教職員、もう本当に親身に関わってくださる、職員が本当にたくさんおりまして、おかげさまでそういうふうな形になってるが、これ、いつ、不登校状況に落ちるかっていうのはもう本当にわからない状況があるので、このサポーターさんがうちに来てるかどうか、もう本当申し訳ございませんちょっとその辺が理解できてなくて、もしそういうふうなことがあれば、ご支援いただいて、また、私どものところで活用させていただけたらなというふうに考えております。

【山口委員】

はい。ありがとうございます。

ちょっと本当に私事で大変申し訳ないんですけど、私高津地区の選出でここに出させていた
だいておりまして、現在先ほど馬場委員からお話いただいたように、この子ども食堂のお話の中
で、私自身が高津の連合を中心に、月1回、子育て支援事業として、一応そういう食堂を実施
しておるところなんです。

高津小学校の先生方にもお越しになっていただきまして、できる限り教職員の先生方と地域
の方々及び生徒さんと接触する機会をふやしていこうということで努めてきて、少しずつそれと
先生がおっしゃったように、少しずつそういう改善される子も出てきてるんですがただ逆に、そう
いったことをしすぎるがゆえに、これ離れていってしまう子も、なんて言うんでしょうかね、なかな
か馴染めなくて、ちょっと自分から離れていってしまう子たちがまだ少しいてるというのが正
直なところでして、ちょっと次の手としまして一応高津の連合を中心に、今食堂のときにセットも
のですね、何かこう子どもたちも含め、全員で興味を持ってできることっていうのは何か、同
時開催できないだろうかということで、今地域の連合の所属の役員、一般企業であったりとか
関係なく、言い方的にはできますリストっていう言い方をしてるんですけども、自分が何か提供
できるか、何が地域に対して貢献できるかっていったものを今実は洗い出しを行っておところ
でございます。

それを洗い出した中で、例えば月に1回ごとのその事業ごとに、今日はこういったイベントをセ
ットでやるよ、そんなときに来てくれたときに、社会との繋がりを持ちながら、皆さんとそういったこ
とを学びつつ、繋がりを作ってまた学校に戻れるような、楽しく学校行けるような環境とそれを
地域の人間が支えるっていう形を今作っていこうという形で連合会長の方が、指針を示されて
おりますので、そういったことも含めてまた、やっていく中で、いろんな課題等出てくると思うん
ですけどもそういったところで、何か他のチームの方々、また連携をとればなと思っておりま
すので、いろいろご指導いただければと思いますので、本当にありがとうございます。以上です。

【黒田委員】

皆さん、こんばんは。

大阪成蹊大学の黒田でございます。

私も2020年3月末までは、東中学校の校長を努めておりまして、当時から区役所の皆さんには、様々な子どもたちの支援事業を展開いただいて、本当にありがたい限りで連携を深めていったという動きがございます。

私も去年からこの教育会議に参加させていただいてるんですけども、先ほどいろんな意見が出て、区長さんからご説明あって、子どもの貧困をなくすための子どもと学校等の支援事業ということで、前回も不登校についての課題解決がやっぱりなかなか厳しい状況だなあという話もありつつ、一方で改善していた経過があったというご報告をいただいたり、具体的な数も理解していただきました。

さらに本年度からは全校展開ということで、広く情報のお出しをお願いしていくってことになってくると思うんですけども、実は瀬戸さんもそうですけど、大重さんも私も東中学校の学校協議委員もやってまして、東中学校の教育課題を考えたときに、学校の方からも非常に不登校生が多いと。背景的にはもちろん、先ほども区長さんから説明があったように、今は経済的には大きな家庭問題はなかったとしても、いずれひきこもりになって大人になって就労意欲に欠けていって、結果として貧困になる可能性があるということが、方向性としてあると思うんですけども、一方で、本当に不登校の原因がよくわからない。複雑にいろんな原因が絡み合ってるんだろうけども、なかなか改善に至らないということが、東中学校の方からも毎回いろんな学校協議委員会や評議委員会で説明があったり、学校協議委員の方としても、どんな方策をたてたらいいのかというふうな話するんですけども、この区役所さんの支援事業としてのサポーターの皆さんの話今も、お話しがあったように、当然教職員の役割とサポーターさん役割があると思うんですけども、ここ、チーム学校ってなってますように、その不登校の児童生徒の、例えば見立てを通して、どういう方を用意していくのか、ここはサポーターさんの力をいただいとか、ここは教職員がしっかりと関わらなアカンということが、おそらくあると思うんですけども、これは区役所さんに質問ではなくて、両校長先生に、そういったサポーターさんとの学校の中での教職員との連携体制とか、役割分担とか、具体的に、表現悪いですけども、子どもたちの中でこの児童がこの生徒はこういう形でと、ケースをしっかりと考えた上で、協力体制を組めてるのかどうかっていうことを教えてもらえたらというのが1つなんです。

基本的には有償ですけどボランティア性が高いということがあると思うんですね。どんな方が、

このサポーターを担っていただいているのか、いろんな学校関係者、今までの学校関係者経験者の話もありましたけど、実際どういう状況かというのを、両校長先生から、実態も含めて、教えていただけたらと思います。

【上町中学校 松井校長】

はい。まず連携をどうするかということで本校はサポーターさんが今、ちょうど予算がついてきましたので、先ほどもちょっとお話をさせてもらったし、今見ていただいているように、教員とは別のアプローチをまず知って欲しいよねっていうところで、今、取り組みをさせてもらってます。

最初に予算がついたのが、本来、不登校の子どもたちが多い学校からってということで、上町中学はちょっと全体数も少ないので、不登校の数もそんなに多くはない方なんですよ。

それでもやっぱり各学級に3人平均ぐらいはおるのが大阪市含めてね、平均値に近いのかなというふうに思いますので、ただ、何で休んでるか原因が確かにわからないまま、ただ本当にどういうアプローチをするのが一番いいのかということが多分、どこの現場も模索しながらです。で、本校が今から取り組んでサポーターさんに、どういうアプローチができるのかっていうことで本当は、自分の個人的なことまでさらけていただきながら、その不登校の子どもに、アプローチしていってもらおうと、どういう結果が出るかなっていうのは、実際、上町中学校の取り組みとしては、やってみて、あかんかったらまた修正する必要があるかなっていうようなことを、今サポーターさんと話をして、進めてるっていうのが、なまなま上町中学校の現状ですね。はい。いい結果が出てば、また皆さんにも共有させていただけたらいいかなというふうには思ってます。答え回答になっておりますでしょうか。

【黒田委員】

教職員はどんな受け止めですか。

【上町中学校 松井校長】

教職員に関しても、この4月からサポーターが来るっていうのと、あと大阪市が不登校支援、心和中学校ということを開設されたので、本校からはすぐに見学にまず行って欲しい、というこ

とで、もう半数ぐらいの職員が今心和中学校行かしてもらって、中の取り組み状況とか、まずは見て、ほぼ隣ですので、行って、ほんで、こういうことを今大阪市とか不登校に関してはしないといけないねっていうようなことで、学校の中にある教室を、ちょっと今整理整備もしだして、そういう心和中学校のようなスペースをちょっとでも作りながらいこうというふうに、教員の感覚も、今徐々にですけども、なるほどなあというふうには、取り組みをサポートが来てもらうことになったので、特にそういう話を持っていっている最中です。

【南小学校 池田校長】

失礼します。先ほど不登校は、おかげさまでっていうお話させていただいたんですが、もうこと日本語指導、それから、特別支援、についてはもう課題が山積しておりまして、外国に繋がるエンパワーメント事業でサポーターさんの方来ていただいている状況があって、もうそれが非常に、本校日本語指導の担当者とそれから特別支援のコーディネーターとが、すごく連携を、言えば日本語指導ですごいものすごくしんどいお子さん、それから、特別支援でしんどいお子さんのところに、もうたくさんのそういう状況がありますんで人を当てていただいているっていう状況、うちは加配もいただいていますので、その中にもサポーターさんも入っていただいて、もう全員でそういうお子さんに対してかかるっていうふうな状況を今、本当に作らしていただいているところで、やっぱり打ち合わせとか、このお子さんに対してのこういうふうな指導をお願いします。教員ができない部分っていうのは、やっぱりそういう人たちが支えてくださってるおかげで、教員がきちんと授業展開できたりとか教員がもう、子どもらがバーツと外走りまわって、担任が外へ出てしまっただけで授業ができないという状況っていうのは、今のところない、それはもう、本当に加配でいただいている部分とそれからサポーターさんでいただいている方が、そういうリカバリーをしてくださっているっていう状況があるので、本当に、それでもまだちょっと足りないっていう状況もあって、いろんな形で人を、もうマンパワーが一番だと、本当に思っているんで、そういったところにちょっと私の力をやっぱり、発揮する必要があるんだろうな。あるものは全部取ってくるがちょっと言葉悪いですけども、そういった状況で今のところ進めてるっていう状況がございます。はい。

【黒田委員】

ありがとうございます。

そういう意味では学校職員が全部ね、やっていくというような教育支援人材を活用していくことでの支援事業を展開されてると思うんですけど、この今で言うと、例えば外国にルーツがある支援事業へのサポーターさん17名18名、こっちの不登校の方も17名18名、それだけでも35名ぐらい、区役所さんで人材を発掘してる状況かなと思うんですけど。

その方々にも学校に携わるときの、例えば研修であったり、また学校事情であったり、そのあたりは何か段階を踏んでサポーターさんを要請されてるのか、また例えば学校から学校の方で人材を探して、区役所さんに登録してもらって、その上で、学校に来てもらうって風になってるのか、やっぱりマンパワーですけどその質にこんな言い方したら失礼ですけどね。その方々がやっぱり教育的な子どもたちへの配慮であったり、関わり方であったり、外国にルーツある子どもたちも、なかなかそういう人間関係性を築くのが難しい状況にあるという児童生徒さんもいらっしゃると思うんで、そのあたりどうですかね。

【平田中央区教育担当課長】

率直なところを申し上げて、人を探していただくのは、ほぼ学校にお任せという。もう学校で探していただいて、普段から、今の方もそうですかね学校元気アップであったり、他のいろんな教育委員会部局が行ってる事業等で、学校で活動していただいている方、もしくはPTAとか。やはり今までおっしゃったように、どういう方、子どもたちに接していただくってことでするので、やはりしっかり活動をしていただける方っていうことになりますと、今もう正直なところもう学校、区役所の事業といいながら、学校で探していただいているというのが、実態でございます。区ホームページで募集をしたりして、たまにお問い合わせもあるんですけども、非常にまだまだ数は少なく。

一方でやはり学校で活動していただいて本当に安心して活動していただける方ってなると、なかなか探すのは、難しいっていうところは、これ本当に課題でございまして、なので、さらに研修というところまでできてないというのが、正直なところでございます。

ただ、課題としてはすごく、認識しておりまして、やっぱり今も言いましたように地域で子どもたちを見守っていただくっていう中で、これを学校で、これをやってみようっていうような方を、発

掘っていくっていうのも、地域コミュニティの醸成等含めて、大きな行政課題だという風に認識しておりますので、引き続き、やれることからやっていきたいという風に考えております。

【瀬戸議長】

すみません、ありがとうございます。

ちょっと長くなったらあれなんですけども、やはりこういうことをお聞きしたときに協議会でもやっぱりどうしても最終的には不登校の話っていうふうになってくると思うんですけども。先日僕の方で川崎子ども夢パークの西野さんのお話をちょっとお伺いさしてもらったときに、やはり先ほど黒田先生がさっきおっしゃったように、不登校が将来その子たちの貧困、就労につけないっていうところに繋がる。ただそのゴールが、果たして学校に登校することなのかと、それは解決になるのかっていう話を聞いてなるほどと感じたところがありまして、なかなか行政だの学校だのっていうとそういうところを突っ込めないという部分もあるのかなと思うんですけど、その辺り、どういった学校に来れば解決するのかどうかっていうのを、どうなの皆さんの意見をちょっとお伺いしたいなと思うんですけども。難しいですかね。

【池田委員】

ちょっと観点が違いますけどね。

【瀬戸議長】

そうなんです。なかなか独特な考えで、確かに、そういう通りにはならないと思う部分あるんですけども、僕たちPTAでも保護者としてまた違う方向で関わってもいいのかなあとは思ったんですけど、不登校に対して。

【黒田委員】

確かにそうですねそれは私も38年間教員やってきて、教員の時から不登校に関わってきたんですけども、かつてはマストですよ。学校に来なければならない、登校させなければならない。学校へ行くのは当たり前の。課題があったと思うんですけど、この間の流れで言うと、今、

会長おっしゃったように、必ずしも学校に登校することが、その子にとってのメリットか。プラス、視点が出てきてますね。

そういう意味で大阪市の方心和中学校開設しましたが、地域の学校ではなくて、不登校特例校という形で、不登校の子どもたちを必ず、戻すってということが本来目的というよりも、その子たちの居場所を作って、そこでもまた人間関係とか、学習活動があるわけですけども、違った環境も含めて、違った教育活動の中で、自分自身を見出していくというか、見つめていくっていうきっかけになるということだと思うんで、そういう意味では地域の学校も、子どもたちの家庭へ行って今まで教員は朝迎えに行き行って一緒に過ごしてというね、なかなか来れなくて、たまに来たら保健室登校か別室登校、で、逆に放課後に行き行って学習活動の支援をして、学習プリントを渡して、また、次の日に取りに行き行って教科の先生に見てもらったら回収する。そんな営みがずっとあったんですけどね。そうであったようにそれでその子自身が学校復帰できて、そのことがプラスになって将来、親交性のある。それは高校生活もそうだねなくてその先の自分の仕事というところにどう繋がっていくかっていうことがね、なかなか、今まではそれが当たり前でないと、学力の問題や、ということも含めてあったと思うんですけどね。

一方で、学校が何のためにあるかとか、例えば学校は何でルールがあるのってということなんかを考えていくとね、学校になんでルールが決まりがあるかっていうと、やっぱ社会には法律や条例やいろんな決まりがあります。それを社会で特に守る人間を育成せなあかん。そのために学校のルールを当たり前を守っていく。そのことによって、児童生徒間の、例えば事故やトラブルを、防ぐことにも繋がる。

ていうことなんかも起こったり、学校にルールがあるのはやっぱり、一番は子どもたちの安全安心を守ることがあって、何で遅刻したらあかんねん、というのは、遅なって、信号無視したら、車に交通事故遭うでとか、途中でこけたらどうすんねんとか、廊下走ったあかんというのは、衝突事故起こったときにけがするやろうみたいな、そういった学校生活の中でいろんな決まりを学んだり、人間関係性を学んでそれを社会で生かしていける力をつけなくちゃいけないっていう、こういった目的もあるので、学校生活を、集団生活を知ることの意味があるっていうのが、長くなってすみませんけど、後で何とか引きこもらずに、社会の一步として学校に就いていうのがあったんですよ。

でもそれが本当にすべての価値観かっていうと、そうではないっていう意見の方も今たくさん出てきてるのは事実やと。難しいと思います。

【瀬戸議長】

はい。ありがとうございます。

黒田先生にはその当時のルールを厳しきっていうのをやはり協議会でもお話をお伺いしてるんで、はい。ご理解してます。

また本当に違った視点で、また僕らも関わっていきたいと思いますんで、よろしくお願いします。すいませんちょっと長くなりました。

それでは続きまして議題2中央区の教育関係について、区役所さんの方からご説明お願いします。

【平田中央区教育担当課長】

はい。お手元の資料3をご用意いただけますでしょうか。

中央区の教育環境についてご説明をさせていただきます。

めくっていただきまして、現状と課題でございます。

ご承知のように中央区においては、どんどん人口が増えていっている中で、児童生徒の急増によりまして、多くの学校で、教室の不足、運動場の狭隘化が課題となっております。

平成30年3月29日の第3回大阪市内中心部児童急増対策PTというのが、市長直轄で開かれておりまして、このときには、開平小学校、中央小学校、南大江小学校を対象に、それぞれの改善の方向性が確認されているという状況になっております。

学校選択、そうした状況でございますので、学校選択制の受け入れ制限や指定外就学の厳格化など、入学者の抑制も、今後検討していく必要が出てきておるところでございます。

一方でですが、南小学校や高津小学校においては、単級の状況が続いておりまして、これ大阪市の学校活性化条例に基づく、適正配置対象校として、推移を見守っているところでございます。

また今もお話出ましたように外国籍児童の増加などの課題に対応していったって、より魅力的な

教育環境となるように、こちらについても取り組んでいく必要がある状況でございます。

下に適正配置対象の区分をご参考に記載させていただいておりますけれども、これはいわゆる小規模校が、区分としては前提でございまして、複式学級を有する小学校、が一番になって、そこから順番に6番まで、1番2番3番と、どんどん緊急性、速やかに取り組みなさいと言われてるところから、推移を見守りつつ、検討していきなさいよと言われてるところの区分までありまして、高津小学校や南小学校は、1から3の小学校除いてすべての学年において単学級であり、今後ともすべての学年において単学級であることが見込まれる小学校ということで、児童推計上、そういう形になっているというところですよ。

なお、1枚めくっていただきまして、このはじめに書いてますが、令和7年度の新入学児童生徒用の中央区の学校案内の初めに記載している内容でございまして、その中でも、下線部にございますように、中央区では児童生徒の急増により、教室の不足・運動場の狭隘化が課題となっている状況です。このため、収容規模を超えた児童生徒数とならないよう、一部の学校では、学校選択制による受け入れ可能人数がより少数となっている場合があります。なお、居住実態のない住所に住民登録の届け出をし、就学すべき学校以外の学校に就学することは違法であり、いわゆる越境入学による通学は子どもたちにルールを守らなくてもよいという誤った認識をもたらすことになります。保護者の皆様にはご理解いただきますようお願いいたしますということで、全来年入学予定の児童生徒に配るものについても、このように記載させていただいてるところでございます。

【稲嶺中央区担当教育次長】

冒頭申し上げましたように、中央区非常に人口が増えております。

全体としては増えているんですけども、やはりどちらかというと、区域の真ん中より北側が、やはり人口が多いということで、小学校或いは中学校において、収容の問題が、今後喫緊の課題という形になって参りますので、こういったところも含めてですね、中央区全体としてどういうふうに教育環境を整えるのかというところを、今後しっかりとこの場においても含めてですね、しっかり検討していきたいというふうに思っています。

【瀬戸議長】

ありがとうございます。

ただいまご説明ありました内容について委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。
何かございますでしょうか。

【大重委員】

よろしいですか。すいません、大重です。

今私自身も開平小学校の学校協議会でとかで参加してることもありまして、こういったお話は常々聞いているんですけども。やっぱりねいろいろな制約っていうか決まり事がある中で、こういうふうにはしか広げられないとか、ていうのはいろいろ聞いているんですけども、やっぱりこういうふうには、学校の規模が小さくて、どんどん増えてきてるのに、そういう施設が小さくて教室が足りなくなるとか、運動場が狭くなるっていうのはやっぱり、まちづくり、都市開発の不備じゃないかと思ってます。これをやっぱり、今ばって人が増えてきて、土地がないんだから狭い。狭いからしょうがないじゃないか。というそういう痛みを受入れるのは、受入れる対象ではないと思うんですね、その教育受ける子どもたちは。だからそこはやっぱり、いろんな手だてを、考えて、例えばねこういう、いろいろあるけど、やっぱりいろんな特例措置をしていかないといけないと思うんですね。もう、今の現状っていうのは、今に始まったことでなくてずっと、ほったらかしとまでは言わないですけども、こういう現状わかってるのに、手を打てなかった、仕方がない、仕方がない。ということで仕方なくいろんな中央区の小学校とか中学校でも、グラウンドを潰して、校舎をふやしたりとか、そういうふうなことになって、やっぱり、この教育環境の中でそういう学校の、施設の規模っていうのはやっぱり、決まっていますよね。

できたのがありまして例えば運動場だったら、児童生徒1人あたり何平米以上、とかいうのを、これは最近できた、あれなんで、今後、新しく学校作る場合はっていう、いうことで、現状はこれを増築対したりする場合は努力義務ですと。

いろいろ、最近では教育委員会の方から説明を受けて、こういうふうな新しく学校作るにあたって、こんな運動場しかできないけどそんなん作っていいのって言ったら、いやでもそれも努力義務なんで、というような回答でね。

なんかやっぱり努力義務にしても本当に努力してるのかっていうの、ねえ。

見えないところもありまして、すみませんちょっと愚痴ばかりで申し訳ないんですけど、やっぱりこの、全体でこういうふうな教育の、部会だけでとか教育委員会だけでどうこうするのではなくて、行政全体でやって取り組んでいかない問題じゃないかなと思います。

【稲嶺中央区担当教育次長】

これね、私も前任区が平野区やったり、住んでるところは港区やったりしてですね。

そこの区から中央区に変わりますと見える風景が全く違うと思うんですね。

じゃあベストアンサーってなんやねんというところは議論として今スタートしたところです。

やっぱり物理的にも、教育環境がこれ以上無理だろうという限界値もあったりしますので、大阪中の都市経営が、とりあえず自由にしてしまっていていいのか規制かけなくていいのかという議論まで今行き着いてるかと思うんですけども。

これはもう全体を巻き込んで議論していかないと、教育委員会だけでさばききれないだろうし、経済界がどうだろうとかですね、或いはそれ以外の、ここで商売されてる方はどういうふう zu 思ってるんだろう。

安全対策、上町台地というどうしてもやっぱりベイエリアよりは息が長かったりしますのでね。

そうするとそこのパイの配分をどうするかと、非常に難しいところがあります。

ただやっぱり目の前に、そこまで来てる課題をやはりどういうふう to 解決していくかという視点も、いるかと思うのでね、日本全体から言うと、少子高齢化って言われてますけど中央区から見ると、そんなふうにととも見えないので、また、実はタワマンもですね、昔はもう空き地はもうないからもうそろそろ打ち止めやでって思ったら、古いビルを建て替えましょうっていうような話になってきてですね、そうすると、すべてのビルが対象になってくる可能性がある。

その中で、今まさにこの環境問題がスタートし始めましたので、今後区政会議もそうかもわかりませんし、教育会議だったらこの議論を避けて通られへんというふう to 思ってますので、皆様からのこういった肌感覚の分も含めて、今日はそういうのもお聞きしましたし、またこれ、今後いろんな形で精力的に議論を進めて参りますので、また皆様方からいろんなご意見ちょうだいして、持続可能な可能性のあるですね、中央区としていくんだと。一方では、先ほど少しありました、

適正配置っていうところで、条例上、一応課題となる取り組みうたわれてるところもありますので、そうすると中央区全体として、どういうふうに色付けしていかなあかんのかという課題も並行してあろうと思いますので、併せて最適解がどこにあるか、探っていきたいなという風に思っております。

【瀬戸議長】

大重委員、ありがとうございました。

他は何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

それでは議事についてはこれで終了とさせていただきます。

円滑なご進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。今後の会議について区役所の方をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【榊原中央区教育担当課長代理】

瀬戸委員を初め委員の皆様長時間にわたりありがとうございました。

最後に区長より一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

【稲嶺中央区担当教育次長】

はい。長いことお話をさせていただいて恐縮です。

先ほど不登校の問題はやっぱり、これはもうまだ新しい部分もありまして、私も少しその時申し上げようかなと思ったんですけども。

平野区のとときは不登校山ほどいてました。

それを引っ張りあげてくる、素晴らしい人がいてました。

その方はやっぱり不登校の支援員やってはって、すごい時間かけて信頼関係を子どもたちと作るんですね。

あるとき僕が読書をする、してる、たくさん本読んだり、子どもたちを表彰しようということをやったんですけども、その時に中学校行って、表彰しました。

そうすると、別室登校ばかりが本読んでたんですね。

他の子どもはどうしたっていうと、クラブ活動忙しいとかですねやっぱり受験があるっていうところがあって、結果的にはその子どもたちしか表彰対象にならなかったんですけども、ただ自分たちの仲間が別室登校してる仲間が表彰されるときに、一緒について行ってもでもいいですかって話があって、校長室に集まってもらって、全体で10人程度そのうち半分以上を表彰したというような状況で、その時に子どもたちとお話をしてですね。そこまで来て、しっかり受け答えもするし、いやー、なんで君そういう不登校なってるかわからへんけどって言うたら、不登校支援員さんが、区長、ここまで来るのにどんだけ大変やったか、今、今日見るからそのように見えるけど、そこまでいくプロセス、人間関係を作って、その子のためを思って足しげく通ってようやく学校の門まで来て、そこから中に入る時間があるって、教室なんか入るのが本当に難しいんですよ。だから別室登校として。

ですからそういう事例もありますしね。中央区に来たら、そんなことはもう、不登校は少ないだろうと思ってたんですが、コロナの影響があったりして、東中学も含めてですね、ものすごい不登校が増えてる。これはもう、いろんな議論があります。実は昨日校長面談やってたんですけど、不登校の解決策を皆様がお持ちですかって聞いたら、人それぞれです。やっぱり学校に信頼関係をつけて、来るのが一番幸せという人から、選択肢が多いほうがいいよねっていうところから、ここ本当に様々です。今のトレンドが、示してるかなというふうに思います。

その中で1人だけ面白いことを教えてくれてすごく感動したのを覚えている。私も実は不登校でしたって人がいてはったんですよ。この人の言葉は重たいです。自分が実際不登校なって、それからどうしたら、あのとき自分はよかったよ。その自分のときの経験を生かして、じゃあ今教育者としてこういうことをしたいなっていう、やっぱり一番、ピアサポーターっていうんですかね、そういうのがやっぱり一番響きますね。

平野区で青春生活応援事業ってやってたんですけど、これは高校生の不登校対策です。その時に一番支援員として、子どもたちの信頼を勝ち得たのが、引きこもり歴20年のおっちゃん。この人は全員が引きつけられました、不登校気味の子は。だってこの人は自分のことをひょっとしてようわかってくれるかもわからへん。やっぱりどうしても教育的指導にたってくると、なんか上から目線に聞こえてしまうんですね。

それが、いやいや、まだだ、君ら3～4年では、まだまだ新採や新米やで。僕なんか20年です

からってという人の話を聞いたら、すごくほっとするし、じゃあどうやっておっちゃん出てきたんって
いうところがあるんですね。

そこがポイントです。どうやって出てこれたん。そこに思考性を持つと、じゃあ自分はどうしよう
かって話になるので、とりあえず、そういう経験者を踏まえて、実際に自分が体験したとか、身近
に子どもが不登校やとか、そういう人たちの悩みを一緒に聞くと、解決策が見えるかもしれない。

ということで、すいません先ほどの不登校問題に対する私の思いを少し述べさせてもらいまし
た。

今日割とすごい突っ込んだ話があってすごくありがたいなと思ってます。

これからこういう場を大事にしながら、皆様方から意見頂戴できたらと思っておりますので、
今後どうぞよろしく、お願い申し上げます。

ありがとうございました。

【榊原中央区教育担当課長代理】

それではこれをもちまして本日の会議を終了させていただきたいと思います。

なお、お帰りの際は1階東側の時間外出入口をご利用ください。

本日はありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。